

2019年～2022 年 入学生募集用パンフレット

<http://www.publicpolicy.law.tohoku.ac.jp/admission/pamphlets/>

※ 社会人学生の紹介ページより抜粋(職業は当時のものです)

働きながら学び直しを 希望される社会人の方に



東北大学公共政策大学院には、地方公共団体や民間企業等に勤務しながら、政策立案や企画能力の向上、知識のブラッシュアップ等のために学んでいる社会人学生が多く在籍しています。

仕事と学業の両立を実現し、日々、成長を続けている社会人学生の皆さんを紹介します。



地方自治体職員

柴田 亮太 宮城県出身(平成30年度入学・令和元年度修了)



東北大公共政策大学院を選んだ理由

私は、東日本大震災直後の平成23年4月に宮城県に採用され、以後6年間は災害復旧・復興をメインに行う部署で業務に携わってきました。そして7年目になり震災の影響も落ち着いてきた中で、自分自身が「大きな変化」に対応できる職員へ成長をしているのか考えるようになり、それが大学院進学の一動機となっています。

人口減少という戦後経験したことのない時代に突入する地方は、持続可能な社会を創るためあらゆる知恵を絞らなければなりません。東北大学公共政策大学院は、公共政策ワークショップを通して、東北地方をメインのフィールドに様々な社会課題に対してアプローチをしています。行政の経験と大学の知的資源を用いて、地域の存在を見つめ直し、新時代を切り開ける力を身につけるために本大学院を選びました。

仕事との両立について

私は課程1年目にあたる年度で、宮城県の条例に基づく「自己啓発休業制度」を活用していました。それにより1年生の時は大学院での学習に集中して取り組むこととし、修了に必要な48単位のうち40単位を取得しました。2年生からは職場へと復帰しフルタイムで業務を行いながら、リサーチペーパーの作成を行いました。東北大学公共政策大学院では土曜日開講の授業や集中講義も多くあるので、2年目にもう少し取得する単位を振り分けることも十分可能だと思います。

大学院で学んだことを活かして

公務員の仕事は前例を踏襲しているだけでとりあえずこなせてしまう部分があります。しかし人口が減少し様々な環境の変化にさらされることが確定的である今後の時代は、現状維持は衰退と同義であると考えます。大学院での学びをとおして養った広く深い視野により、日々の業務の中で「問題点がどこにあるのか」「課題をどのように設定するのか」「その実現手法が効率的なのか」を考え、住民の幸福を実現するための政策を創っていきたいと考えております。

1週間のスケジュール

2018年前期

	月	火	水	木	金	土
1時限				【講義】地域社会と公共政策論I		
2時限				【講義】公共政策基礎理論		
3時限		【公共政策ワークショップ】人口減少社会に対応したまちづくり法制に関する研究				【講義】公共政策特論II
4時限	【講義】政策調査と論文作成の基礎			【講義】政策体系論政策実務A		
5時限						
6時限						

集中講義	政策評価論	政策分析の手法	格差社会と経済
------	-------	---------	---------

2018年後期

	月	火	水	木	金	土
1時限						
2時限						
3時限	【講義】社会福祉政策	【公共政策ワークショップ】人口減少社会に対応したまちづくり法制に関する研究				【講義】公共政策特論II
4時限	【講義】経済学理論		【講義】地方自治法			
5時限						
6時限						



団体職員

猪股 佳那子

宮城県出身
(平成31年度入学)



東北大公共政策大学院を選んだ理由

現在、大学の国際関連部署で勤務しています。普段の勤務では、国ごとに違う教育システムや法制度、周囲を取り巻く環境の急速な変化等に対応する必要があり、前例踏襲では立ちいかない場面が多々出てきます。もっと世の中の動きについて学んでいかなければ、半ば焦りにも似た思いに駆られていました。東北大学の公共政策大学院では、政策形成に関する実務的な授業と学術的な内容の授業とを同時並行で体系的に履修できるカリキュラムが組まれており、そこに魅力を感じ入学することを決めました。もちろん、長期履修制度により、フルタイム勤務を続けながら通学できるという点も重要なポイントでした。

仕事との両立の状況

長期履修制度を利用し、3年間での修了を目指しています。1年次で必修のWSⅠは有給休暇を使い、その他の授業は勤務を終えた18時以降や休日に、無理のない範囲で履修しました。勤務先のリフレッシュ休暇制度を活用し、台湾への海外調査にも参加することができました。

現在の学習内容

2年目である今年度は、基幹科目の授業履修を中心に進めていく予定です。また、リサーチペーパー作成に向けて、調査研究の方法や分析の方法論など、自ら設定した研究課題を追究するための基礎を養う一年にしたいです。

今後の抱負

高等教育政策に関わる研究や学習を通して、大学運営について学術的な視座を身に付けたいです。また、先生方や同級生との議論により、論理的な思考を身に付けることも目標の一つです。今後も、大学院で得た知識や経験を実際の業務に活用することを見越しながら、主体的に学習に取り組んでいきたいです。



1週間のスケジュール

2019年前期

	月	火	水	木	金	土
1時限		勤務				
2時限						
3時限	勤務	【公共政策ワークショップ】 農林水産物輸出促進と インバウンド農泊による農山漁村 振興策の検討	勤務	勤務	勤務	【講義】 公共政策特論Ⅰ
4時限						
5時限						
6時限						

2020年前期

	月	火	水	木	金	土
1時限						
2時限						
3時限			【講義】 防災法	勤務	勤務	
4時限	【講義】 政策調査と 論文作成の 基礎	【講義】 日本政治 外交史演習Ⅰ				
5時限						
6時限						

このほかオンデマンドで授業を履修しています

他にも、市議会議員、町議会議員、国家公務員、市役所職員、民間企業社員、大学職員、NPO職員として働きながら又は休職して、当大学院で学んでいる学生の皆さんがいます。



団体職員

寺門 瞳

茨城県出身



(勤務中)

東北大公共政策大学院を選んだ理由

私は現在、市の観光に携わる外郭団体に勤務しています。インバウンドの増加に伴い、誘客促進の方法や観光客の受け入れ環境の整備の仕方も、日々変化しています。観光立国日本の一地域の現場を担う者として、多角的な視点から学ぶ必要性を感じ、働きながら学べる環境である東北大公共政策大学院を志望しました。

仕事との両立の状況

長期履修制度を活用し、4年間での修了を目指しています。

勤務は基本的には月～金曜日ですが、祭りやイベント等が週末や休日に行われることが多く、その振替休日や年次有給休暇を利用して通学しています。

現在の学習内容

1年次は必修科目(公共政策WSⅠ、政策調査と論文作成の基礎)のみの履修でしたので、今年度は基幹科目を中心に履修をしています。WSⅡでリサーチペーパーの執筆を念頭に置きつつ、新たな知識の習得がメインの1年間になります。

今後の抱負

大学院の制度のおかげでもありますが、もちろん職場の理解があって学ぶことができます。学んだことや気づき等は、論文の形としてだけでなく、日々の業務に少しずつ取り入れることで、職場へ還元していきたいです。そして、人口減少社会の現実に向き合い、多角的な視点から、改めて今後の観光のあり方を考えていきたいと思っています。



1週間のスケジュール

2018年前期

	月	火	水	木	金	土		
1時限	勤 務		勤 務	勤 務	勤 務	勤務(イベント対応等)※不定期		
2時限								
3時限								
4時限	【公共政策 ワークショップ】 人口減少社会に 対応した まちづくり法制に 関する研究							
5時限								
6時限	【講義】 政策調査と 論文作成の 基礎							
		勤 務						

※有給休暇や、土日祝日勤務の振り替え休日等を利用して、月曜・火曜の授業を履修した。

2019年前期

	月	火	水	木	金	土
1時限	【講義】政策過程の歴史分析	【講義】租税制度論	勤務			勤務(イベント対応等)※不定期
2時限			【講義】政策体系論 政策実務A 都市法政策			
3時限						
4時限	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	
5時限						
6時限						

(長期履修制度を活用中)

他に、下記のような勤務先で働きながら又は休職しながら、当大学院で学んでいる学生の皆さんがいます。

- 福島県南相馬市役所
- 陸上自衛隊
- 仙台市議会(議員)
- 学校法人自治医科大学
- 経済産業省
- 国立大学法人東北大学
- 福島県郡山市役所 等

働きながら学び直しを 希望される社会人の方に



東北大学公共政策大学院には、地方公共団体や民間企業等に勤務しながら、政策立案や企画能力の向上、知識のブラッシュアップ等のために学んでいる社会人学生が多く在籍しています。

仕事と学業の両立を実現し、日々、成長を続けている社会人学生の皆さんを紹介します。



地方議会議員

菊地 崇良 宮城県出身



(ワークショップのメンバーと。本人は左奥。)



東北大公共政策大学院を選んだ理由

今、多くの自治体は、これからの急激な少子高齢化と人口減少への対応に悩んでいます。東日本大震災からの復興も未だ途上です。これらの諸課題に向き合うため、行政と議会による政策立案機能の更なる充実が必要です。広い分野での多くの知的資源を有し、透徹した現場力の練磨を重視して問題・課題の解決に取り組む続ける本院において、自ら学び新たな時代を切り拓く議員力を培い、新たな方策を見出したいと考えたからです。

仕事との両立の状況

仙台市議会議員としての職務との完全な住み分けは容易ではありませんが、他のワークショップのメンバーの協力を得つつ、先行的な調整等をおこなうことによって両立に努めています。

現在の学習内容

人口減少社会に対応したまちづくり法制に関するワークショップでの研究と、公共政策に求められる知識と技能を再構築する基礎と実務の科目を選択しています。

今後の抱負

研究・実務両面での修学は職務に直結しており、今後の議員活動の充実に大いに役立つものと考えております。引き続き、学びかつ働く姿勢で絶え間なく、地方公共団体の目下の最重要課題の一つである地方創生に貢献したいと思います。



(勤務中)

1週間のスケジュール

	月	火	水	木	金	土		
1時限	勤務 (公務・政務等)	勤務 (公務・政務等)	勤務 (公務・政務等)	【講義】 地域社会と 公共政策				
2時限					【講義】公共政策 基礎理論			
3時限		【公共政策 ワークショップ】 人口減少社会に 対応したまちづくり 法制に関する研究		勤務 (公務・政務等)	勤務 (公務・政務等)	勤務 (公務・政務等)	【講義】 公共政策持論Ⅱ	
4時限	【講義】 政策調査と論文 作成の基礎							
5時限								
6時限								

参考：勤務は通年の各種委員会や協議会、自らや会派の調査・研究等があるほか、予算・決算を含む条例などについて1ヶ月間にわたり集中審議する議会定例会が年4回ある。



地方自治体職員

小野寺 聡 宮城県出身



(ワークショップにおいて発言中)



(ホワイトボードの前に立っている人物が本人)

東北大公共政策大学院を選んだ理由

今まで社会で培ってきた経験を、大学院の持つ最新の知見を元に整理し、次のステップへ進むための再勉強をしたいと思い、本公共政策大学院の門を叩きました。教授陣が各省庁から派遣されている実務家教員の方々と、研究者教員から構成され、それにより両面からのサポートがあり、専門性と実務性を兼ね備えている点も大変魅力的でした。

仕事との両立の状況

現在の仕事は、県南の自治体で東日本大震災からの復興事業を行っています。

現在は年休取得で通学していますが、突発的な業務が入ると、開始時間に間に合わないこともあります。ワークショップの仲間や、理解のある同僚等多くの方に支えられて学ばせていただいています。

現在の学習内容

「公共政策ワークショップⅠ」では、「長期マクロ対外政策」を学んでいます。自分自身の海外勤務経験をアウトプットしながら、若い方々の新鮮な考え方をインプットする日々で、とても刺激を受けています。

今後の抱負

現所属、今までお世話になった勤務先の方々へ学んだノウハウを還元していく取り組みや、将来的な目標である I A E A 職員としての勤務へ向けて着実に学びの成果を積み上げていきたいと考えています。そのために、本大学院が採用している「長期履修制度」は社会人である自身にとって大変助かっています。



1週間のスケジュール

	月	火	水	木	金	土	
1時限	勤 務	勤 務	勤 務				
2時限							
3時限		【公共政策 ワークショップⅠ】 長期マクロ 対外政策 歴史・策定体制・ 試論				【講義】 公共政策特論Ⅱ	
4時限	【講義・講習】 政策調査と論文 作成の基礎						
5時限							
6時限							

(長期履修制度を活用中)



(勤務中)

他に、下記のような勤務先で働きながら又は休職しながら、当大学院で学んでいる学生の皆さんがいます。

- 岩手県宮古市役所
- 陸上自衛隊
- 仙台市議会(議員)
- 学校法人自治医科大学
- 宮城県庁
- 公益財団法人仙台観光国際協会
- 福島県郡山市役所 等

働きながら学び直しを 希望される社会人の方に



東北大学公共政策大学院には、地方公共団体や民間企業等に勤務しながら、政策立案や企画能力の向上、知識のブラッシュアップ等のために学んでいる社会人学生が多く在籍しています。

仕事と学業の両立を実現し、日々、成長を続けている社会人学生の皆さんを紹介します。



地方議会議員

高橋 聡輔 宮城県出身(2020年度入学)



東北大公共政策大学院を選んだ理由

私は、東日本大震災後の2011年8月から、地元宮城県加美町の議会議員として行政に携わってきました。様々な研修等に参加し、議員のなり手不足の問題や、地方議会の政策立案や提言の件数の少なさを改めて感じていました。10年を迎えようとしている頃、自らのスキルアップのために何かしなければと思っていたときに、東北大学公共政策大学院の受験を決意しました。決め手は、しっかりとした知識を得るための研究者教員はもちろん、実務家教員の経験を踏まえた講義・指導を受けられることや、長期履修の制度があることでした。

現在の学習内容

1年目は、ワークショップ・必修科目の履修メインに進め、ワークショップでは、農業(農地・担い手の課題)と地域振興策について調査を進めてきました。2年目は基幹科目を中心に進めて、仕事とのバランスを考えながらリサーチペーパーのための課題抽出や基礎を固めていき、長期履修の中で計画的に学習していきたいと思っています。

仕事との両立について

仕事と議員活動、大学院の「三足の草鞋」ですが、長期履修を活用しています。最初はワークショップや必修科目など両立の不安はありましたが、社会人の仕事に対して理解のある先生方や、仲間の協力で何とか両立できています。またコロナ禍という事で、逆にオンラインでの講義も多く、通学時間も気にせず受講する事ができました。大学院に来ていたことで、コロナ禍でどのような対策をすべきか、またネット環境の活用方法をいち早く知ることができたことも、非常にいい経験ができたと感じております。

今後の抱負

地方創生による地域振興の効果や課題について、主観的・客観的の両面での視点からアプローチし、地域の取組について考えていきたいと思っています。またコロナ禍により対面での議論が少なくなっていますが、ぜひ若い同期の学生や、先生方と積極的に議論をし、少しでも自分の仕事にも貢献できるような学びをしていきたいと思っています。

1週間のスケジュール

2020年前期・後期(黄色…前期のみ、ピンク…後期のみ、オレンジ…通年)

	月	火	水	木	金	土
1時限						
2時限						
3時限	【講義】公共政策基礎理論	【公共政策ワークショップ】なぜ地域振興にとって農業が重要なのか？農地と担い手の課題に関する研究	【講義】震災復興における政治・行政	【講義】防災法		【講義】経済産業政策特論I(隔週)
4時限						
5時限	【講義】政策調査と論文作成の基礎				【講義】公共政策基礎理論	
6時限						

政策分析の手法(前期集中)
この他、講義のない時間帯は勤務(公務または自営業)

2021年前期

	月	火	水	木	金	土
1時限	【講義】地域社会と実務政策学B				【講義】地域社会と公共政策論II	
2時限	実務政策学B 農林水産政策				地域農林水産政策	
3時限					【講義】実務政策学A	
4時限					環境政策	
5時限						
6時限						

この他、講義のない時間帯は勤務(公務または自営業)